

自由論題 1 中国経済の実証分析

報告 2

中兼和津次（東京大学名誉教授）

三竝康平（帝京大学）

「中国における地方過剰投資の政治経済学：省別パネルデータによる実験的分析」

中国における 2012 年ごろまでの長期にわたる異例ともいえるべき高成長は、いうまでもなくその高い投資率によってもたらされたものであり、この高投資率は地方における過剰投資の結果だったともいわれる。しかもそれは純粋に経済的要因によって引き起こされたというよりも、むしろ強い政治的要素に促されたものであると広く認められている。たとえば、地方の指導者が自らの出世のために在任中に実績作りをしようと過剰投資したり、他地域と競争するために無駄な重複投資をしたりするのがそうした例である。したがって、中国の地方投資は基本的に 2 つの部分、つまり純粋に経済的に決められる部分と本質的に政治的動機によるもの、より正しくは経済的要因だけでは説明できない部分から成り立っていると想定できる。そこで、2001 年から 2014 年にわたる省別パネルデータを用い、中国における地方のマクロ（加速度因子型）投資関数を推計し、地方投資をこれら 2 つの要素に分解し、地方レベルにおける過剰投資のメカニズムを探ってみることにした。そこから得られる暫定的な結論として、1)中国の地方投資の非経済的要因は初期には沿海部などの発達した地域に比較的強く働いていたが、次第に内陸部の遅れた地域に移っていった、2)投資の非経済的要因は地域の制度的発達度や開放度にも関連しており、（他の条件を一定として）制度化された地域ほど、また貿易面で開放度の低い地域ほど、投資に非経済的要因が働く傾向がみられる。中国における地方投資はさまざまな要因によって支配されており、本研究で取り上げる説明変数はそのうちの一部でしかない。本研究は、将来の本格的分析に向けての序論的、かつ実験的研究として位置づけられる。